



知識より実践、意欲より行動

副校長 山谷 浩司

二十四節季の一つ「大寒」が過ぎ、一段と寒さが厳しくなりました。このような環境の中でも、餌を探しながら強かに生活を営む野鳥や、寒風に怯むことなく悠然と佇む木立から、力強い息吹を感じます。身近な動植物の直向きな生命力を直視することを通して、元気と勇気をいただいています。

先日、この時期から一つ、二つと咲き始める河津桜を見に、南伊豆の河津を訪ねました。残念ながら、まだ咲き始めの状態でした。河津桜は、2 月下旬から 3 月上旬にかけて満開となるピンク色の桜です。南伊豆の温暖な気候と、早咲き桜の特色を生かし、毎年 1 月下旬から開花し始め、約 1 ヶ月を経て満開となります。開花から満開になるまでの過程を長く楽しめる他、満開の期間が長いことも河津桜の特徴の一つです。6~8 分咲きの頃が花に勢いがあり、最も見頃になるといわれています。

河津桜の原木は、地元の飯田勝美氏(故人)が昭和 30 年(1955 年)2 月のある日、河津川沿いの冬枯れの雑草の中で芽吹いていた桜の苗を見つけ、その苗を植えたことに始まります。昭和 41 年から桜の開花が見られるようになり、1 月下旬から 1 ヶ月に渡って淡紅色の花が咲き続けたことで、近隣の人たちから注目されるようになりました。そして、昭和 43 年頃から増殖されるようになり、昭和 47 年には原木が河津町にあることから「カワツザクラ(河津桜)」と命名され、昭和 50 年に河津町の木に指定されました。飯田氏が見つけたカワツザクラの原木は、オオシマザクラ系とカンヒザクラ系の自然交配種と推定されています。一年の中で最も花が少ない時期に見頃を迎える河津桜の存在は、これまで多くの人々の心を和ませてきたことでしょう。

アイデアだけでなく、そのアイデアを実行することが発明である

この言葉はドイツの文豪ゲーテの言葉です。詩人、劇作家、小説家、哲学者、科学者、政治家といった多才な面をもつゲーテらしい言葉といえます。またゲーテは、書き下ろした書物の中で、「知識より実践、意欲より実行」と述べています。つまり、ゲーテは才能多き実践家でもあったのです。

河津桜の原木を見つけた飯田氏が、冬枯れの雑草の中で芽吹いた桜の苗に興味をもたなかったなら、河津桜は存在しなかったかもしれません。同様に、興味は示したものの、苗を植えるという行動をとらなかったなら、苗は冬枯れの雑草と共に消滅していたかもしれません。河津桜は、飯田氏がアイデアやひらめきを実行に移したことで、誕生につながったといえます。

総合的な学習の一環で、昨年 12 月に 4 年生がアジサイを植えました。このプロジェクトは、3 年生の時に受けた「アジサイの挿し木の出前授業」に端を発しています。植樹が可能な状態になるまでの期間は、ボランティアの方々に預かってもらい、大切に世話をさせていただきました。そして、昨年 11 月に西公園へ、12 月に校庭へと植樹するに至りました。

今後、アジサイをどのように育てていけばよいか調べたり、アジサイの PR 活動や成長記録の付け方について話し合ったりする活動を通して、子どもたちが自ら編み出したアイデアを実行に移していくこととなります。より主体的に活動する場面も、これまで以上に増えていくことでしょう。

何年か先、アジサイが校庭に根付き、高田小学校の自慢の一つとして咲き揃う日がとても楽しみです。